

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700018		
法人名	有限会社 富士建設		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	兵庫県美方郡新温泉町七釜329-1		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	2015年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2014年12月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅ではないが、自宅で生活しているように過ごして頂きたいとの事で、理念としてホームは我が家を唄っています。家に居たらされるであろう春のお花見、お彼岸、お盆のお墓参り、秋の紅葉狩り等季節に応じて職員が寄り添ってケアをさせて頂いたり、日々の食事の材料の買い出し、生活必需品の買い物と一緒に店に行って頂き買い物も楽しんでいただいています。

常に感謝の心を持ち利用者とは共に、職員は「ありがとうカード」を毎月記入して、自分はもちろん、一緒に働く仲間の素敵な言動や、感謝したいことなどを振り返っている。事業所は、自治会には加入するものの、地域から少し距離があり、利用者の高齢化や重度化も重なって、利用者と共に地域交流に難渋している。又、地域性から事業所利用を関係者に知らせていない利用者もあり、本人と家族や関係者との関係性再構築への難しさにも直面している。しかし、今後は色々な研修にも取り組み、職員の資格取得への努力も応援したいと考えている。又、これまで以上に、地域や家族への働きかけも多方面からの工夫、継続が求められる。ぜひ「事業所だより」を作り、家族や関係機関に配布するとともに、事業所の今後の発展に有効に活かされることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアを実践していただくよう職員一同努めて頂いています	理念を、職員室に大きく掲示している。毎朝「気は長く、心は丸く、腹立てず、人は大きく己は小さく」を利用者のいるフロアで唱和し、利用者から拍手が起きることもある。日々感謝の心を持ち、支援に取り組むよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが交流するよう努めています	自治会に加入し、地域の祭りの日に事業所の祭りも開催し、獅子舞などの訪問も受けている。小学校の運動会を見にいたり、町の文化祭に、利用者が一年かけた手作り品の展示や、ハーモニカ、アコーディオンの演奏発表も行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区で開催される認知症セミナー等に参加させていただいて現場で役立たせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員のアドバイス、研修の案内等を頂き参加させていただいております	地域包括、区長、民生委員などが参加し、2カ月に一度開催。事業所からは事業内容や、日々の様子を報告している。前回の第三者評価の結果報告も口頭で行った。家族会があり初回の参加はあったが、現在は家族会自体の活動がなく、会議への参加もない。	利用者の代弁者として、事業所の理解者、応援者としても大切な存在である家族の参加は必要である。イベント開催時に運営推進会議を開催するなど工夫をされてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密にとつてはませんが、必要に応じて相談等させていただいております	認定調査や生活保護利用者についてなど、相互に行き来して連携を図っている。FAXや電話などによる連絡も必要に応じて行っている。事業所開設後3年が過ぎ、短期入所受け入れについての相談も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止のため玄関の施錠は時にはさせて頂くこともあります。身体拘束に関しては一切しないケアに努めております。	一部の利用者の不穏時に、玄関扉上部に小さな木の杭ですぐに出れない対応を行っている。エレベーターは利用者で操作可能。外部での身体拘束に関する研修については、職員会議などで報告し資料を回覧しているのみで、内部研修も含めて不十分といえる。	玄関の一部施錠も含め、身体拘束についての研修を日頃から繰り返していただきたい。インターネットや新聞記事などから事例を取るなど、身近な問題として取り組まれてはいかがか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の内外に限らず虐待というようなことが無いよう、注意をはらい、防止に努めています。	虐待防止についての研修の機会がもたれていない。利用者への言葉かけに、職員自身が疑問を感じながらも言い出せないまま、一部、不適切な言葉かけが常態化している。管理者は不適切ケアを見つけた場合、その場で注意するが職員個別の問題として処理されている。	身体的な虐待はもちろん、暴言、無視、スピーチロックなど目に見えないものも含め、常に研修により注意を喚起することが必要と思われる。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の利用者さんの必要に応じ関係者さんに情報の提供をさせていただいています。	事業所内に権利擁護に関するパンフレットなどが用意されていない。必要と思われる利用者や家族に案内し、希望があればつなぐ準備はあるが、職員は制度について学ぶ機会はなく、日常生活自立支援事業についても把握していない。	パンフレットは手軽に見れるところに置き、情報提供をお願いしたい。職員は、成年後見制度や日常生活自立支援事業などについても、ぜひ学ばれることを期待したい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時にはゆっくり説明等をさせていただきます、またそのあとでも分からないこと等を遠慮なく聞いて頂くようお願いしています。	重要事項説明書を使って説明している。すぐに理解が難しい場合は、持ち帰って納得の上契約している。利用者も含めての見学を勧めるも、家族のみの場合が多い。契約時に個人情報同意書も得ている。利用料金については申し込み時点での問い合わせが多い。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を遠慮なく伝えて頂く方法として玄関に意見箱を設置して書いて入れて頂くようお願いします。	意見箱を設置するが、利用者や家族からの意見はない。面会時には必ず声かけて意見や要望を聞くようにしている。洗濯物の入れ違いや、自分のものと思って他の人の衣服を着ていたことがあり、家族より注意を受けた。以後、頻回に収納ケースをチェックするように改善した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的または必要に応じ開き職員の意見、提案を聴く機会を設け環境の整備に努めています。	職員会議を2カ月に1度開催し聞いている。年に1～2回、個別面談を管理者や代表者が全職員に行い聞いている。手すりの設置や、利用者の外出に関する提案などが出され反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員向けのアンケートや個人面談等を設け個々の思いを聞き取り環境整備に反映します		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのために外部より専門的指導者等を依頼したり、外部への研修も積極的に参加して頂くよう勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修のなかで同業者さんとの交流を深めいい情報交換をして頂き施設の向上に努めて頂いています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族さんを通じて希望・要望をうかがってその様な対応をこころがけてます		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の聞き取りのなかで聞かせて頂いてますがその後も電話または、来所して頂いて伺うよう努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時(サービス計画1)入所されて様子観察1ヵ月以内(サービス計画2)で対応させていただきます		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまではできていなかったように思いますので、今後努めていきます		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さんによって一律ではないですが、関係を築けるよう努めています		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さん個々によって違いますが、支援に努めています	事業所の利用を親せきや知人に隠している人もいます。しかし、幼馴染の方が数人来所し、30~40分歓談していく利用者もいる。家族の協力を得て法事に参加したりもするが、周辺に利用できる店などがなく、管理者は新たな馴染みづくりの必要性を感じ検討している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの関わりを持って頂くよう努めています		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には努めてませんが、折に触れお会いすることが有れば、ご相談やご支援に努めます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設として出来る範囲内で希望、意向に沿えるよう努めている	利用前の聞き取りで本人、家族から聞き取ったり、日々の支援の中で聞き取っている。困難な場合は、日頃の食欲、歩き方、表情、動作などに注目、観察し、思いや意向をくみとるようにしているが、体調管理の観察で終わることも多い。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんにお話しをお聞きしながら利用者さんの把握に努めています		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族さんと連絡を密にし意見を頂きながらより良いケアが出来るよう努めています	本人の意向や家族からの思い、かかりつけ医の情報、担当職員の意見などを元に介護計画を作成している。モニタリングは6か月に1回、担当職員が行っている。緊急時や、計画変更が必要な時の対応を心がけているが、ケアマネの勤務形態から対応しきれない時もある。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの様子の変化を職員間で共有しより良いケアに努めています		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員と共に利用者さんのニーズに努めています		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の行事または施設等に出向き地域に暮らしておられることを実感していただいています		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応は家族さんとの協議のうえ対応し職員対応の場合は受診結果を電話にて報告させていただいています	これまでのかかりつけ医の受診を継続している。家族の付き添いとしているが、多くは職員が支援している。利用者の状態変化等がある場合は、看護師が付き添ったり、相談を受けることもある。利用者の健康状態について、家族にはこまめに報告し、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんとの関わりのなかで少しの異変でも看護職等との相談のなかで受診または様子観察を行っている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は出来る限り利用者さんの面会に行き病院関係者または家族さんとの情報交換に努めています	日頃から、看護師による健康管理がいきどおり、体調変化には、速やかな対応ができており、入院時は、職員が見舞い、声かけするなど、安心できる環境に努めている。利用者、家族の意向をうけ、早期退院に向けた受け入れについても、体制を整えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者さんの重度化・終末期の対応を家族さんと十分に話し合い施設でできることとできないことを、説明し、了承を得ています。	契約時に、利用者、家族には事業所の出来ること、出来ないことを説明し、理解を得ている。利用者、家族の安心を最優先に考え、状況によっては早めに話し合いの場を設け、今後の対応を協議するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者さんの急変に備え救急法の講習会や、AEDの講習会への参加し実践力を身に付けております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が規定に定められた防災訓練を実施し災害にそなえた体制を整えています。	年2回、昼夜想定避難訓練を実施している。可能な限り、利用者も一緒に、避難経路の確認を行い、緊急時に備えている。運営推進会議で訓練実施報告、防災についての話はしているが、地域への案内、協力依頼にはまだ至っていない。	まず、運営推進会議で、避難訓練の見学依頼からでも、働きかけてみてはどうか。

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを配慮した対応をこころがけて支援させていただきます。	馴染みの関係が深まるにつれ、馴れ合いになりがちのため、管理者は、職員には常に、声の大きさやトーンに注意するよう伝えている。認知症が重度になるにつれ、職員の言葉づかいがぞんざいになりがちで、呼び方には、特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いや希望はしっかり聞かせていただいたうえで、できることとできないことを説明させていただき支援させていただきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんのご希望にはお答えしたいとは思いますが出来かねる内容も数多くあります		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体機能に応じて身だしなみ等支援させていただきます。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、食事準備、後片づけを出来る利用者さんには積極的にしていただいています。	職員が、利用者からのリクエストや好みを反映させたメニューを考え、調理している。利用者も野菜の下ごしらえや調理、盛り付け等、得意なことやできることを自ら関わっている。季節によっては手作りの常備菜に取り組んだり、おやつも職員と手作りすることもある。職員は検食として、一緒に食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの身体状況に応じた食物、水分を提供させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者さんの状態に応じて支援させていただきます。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗による紙パンツの多量使用を鑑みて職員間で検討し手づくり綿パンツ作成中今後使用予定にしています。	個々の排泄状況を把握し、必要に応じて声かけしたり、早めに誘導している。失敗を出来るだけ減らし、排泄用具の負担軽減を図るために、手作りのパンツを職員が考案し、活用を予定している。看護師のアドバイスを得て、自然な排便調整にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜ジュース・フルーツ・寒天ゼリーなどを提供して少しでも自然排便がスムーズになるように支援させていただいています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務形態上入浴時間はある程度決めさせていただいています。体調・気分に応じて入浴の支援をさせていただいています。	土地がら、温泉使用となっており、複数人でも入浴できる。体調管理にも配慮し、安心してゆっくり入ってもらうよう心がけている。利用者のペースを大事にして、せかすことはせず、ゆっくり職員との会話を楽しんでいる人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に応じて安心して気持ちよく眠れるように支援させていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のことはとても大切で、又怖いものですので、看護師、又医師としっかり相談したうえで対処させてもらってます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間でいろいろな検討し話会いました。希望をお聞きしても体力的に難しい部分が多くできなかったり、生活歴をみてお誘いしても興味を示されなくなった経過が良くみえます。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い暖かい日には戸外の散歩に積極的にでていただいています。利用者さんの希望に応じて帰宅願望が頻繁なときは家族さんに相談し一時帰宅していただくこともあります。	気候のいい時期が比較的限られているので、時期をみて、積極的に外出の機会を設けるようにしている。事業所前の川沿いの散歩や買物など、特に要望がなくても、こちらからも声かけし、誘うようにしている。受診のついでに家族と外食したり、自宅に寄ることもある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者さんには少額ですが持って頂き安心していただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの要望に応じて手紙または手紙を書いて頂き家族や知人との連絡を取っていただいています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花・木などを飾ったり利用者さんの作った貼り絵などの作品を展示して季節を感じていただいています。	リビング中央に、大きなテーブルと壁際のソファが配置され、利用者は思い思いにすごしている。食事後は、ソファで気の合う利用者が一緒にくつろいでいる。利用者職員合作の季節の手作り作品が、来訪者の目を楽しませてくれる。廊下には、利用者の行事の写真も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間としては独りになれるスペースは難しいですが気の合った人同士は居室をお互い行き来されています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族さんと利用者さんが話し合わせその後施設に”こんなものをもってこようと思います”というような報告をしていただいています。	それぞれが、使い慣れたベッド、たんす、椅子等を持ち込んでいる。入居後、様子を見ながら必需品を揃えている利用者、家族もいる。こだわりのある趣味のものや、馴染みの本や道具を身近に置き、その人の生活の様子がうかがわれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はなるべく頂くようにしています。		